

人妻スポーツ倶楽部
最上階で行われる
新しいスポーツは
青少年スポーツ倶楽部で
鍛えている青年たちとの
激しい大乱交

人妻スポーツ倶楽部
最上階で行われる新しいスポーツは
青少年スポーツ倶楽部で鍛えている青年たちとの
激しい大乱交

ここは人妻スポーツ倶楽部。

数多くの人妻たちが、日々の運動不足を解消するためにフィットネスウォーキングからダンス、筋力トレーニング、更には球技に至るまで多種多様なスポーツに励む。

4階建ての施設全体が、倶楽部活動の場である。

「そうそう、また最近新しい器具が出来たらしいわよ」

「2階のエクササイズスペースのこと？」

「そう。大腿筋の辺りをより重点的に鍛えるんだって1」

引き締まった腹部に、むっちり足。

もう少しここで鍛えて痩せてもいいのでは？と思えるくらい、程よい肉付きの人妻たちもいる。

この日一通りメニューを終え、人妻たちはタオルで汗をぬぐう。

「それでね、最上階の新しいスポーツについてだけど・・・」

茶色のウェーブがかかった髪が肩まで伸びたミハルが言う。

「ああ、そのことね・・・あたし楽しみなんだけど、なんせすごいことでしょ、それって？ドキドキしちゃって・・・」

隣にいたサキとアリサが、とても恥ずかしそうに顔を真っ赤っかにする。

3人は32歳の同い年人妻仲間だ。共に夫と小学生の子供がいる。

「確かに、スポーツもそこまでいきつければ、開き直りの境地よねえ」

「ですわよね。だって・・・」

並んで廊下のベンチシートに座りながら話をする3人。

3人の顔は期待で胸が膨らんだ子供のような。

「若い男の子と裸で大乱交が出来るんでしょ？やっぱり・・・フッフッ、何度聞いても凄いわよ」

「フッフッそうね。だけどあたし、とっても楽しみにしてるかも・・・」

「当然よお。本当は今すぐにでもしたいくらいっ」

アリサの顔がにやける。

「でも始まるのは来週の火曜日よ、それ以降週一のペースで行われるんだわよね」

「うん、あたし今から楽しみで楽しみで・・・」

淫欲に目がくらんだ人妻たちの心持ちは一致していた。

この人妻スポーツ倶楽部ではこの度、普通のスポーツにマンネリを感じていた彼女たちのために新たなメニューが追加された。

その種目はスポーツウェアを脱いで“裸”で行われる。

人妻たち全員が全裸になり、道路の向かい側のビルの“青少年スポーツ倶楽部”で汗を流し、日々鍛えている青年たちと交じり合うのだ。

それはスポーツ。

“セックス”

というスポーツだ。

人妻たちは一様に、その時を胸躍らせて楽しみにしていた。

そして、ついに次の火曜日がやって来た。

「あたし、もう朝から体がうずうずしちやっって・・・」

「たまんいわよねえ。早く時間来ないかしら？」

人妻たちは更衣室で着替えながら、声を期待で上ずらせる。

「もうあたし、ここ1週間普通のスポーツなんて手につかなかったわ・・・
どうなるのかしら、楽しみ！」

ブリンッ！と露出する人妻たちのおっぱい。

施設へやって来た人妻たちは私服からスポーツウェアに着替えている。

「でも、我慢、あとちょっとの我慢よ！！」

「9時からだから、あと2時間ね。それまでは律儀に、いつものトレーニングに励みましょっか！」

鼻歌を歌いながら、人妻たちはエクササイズスペースがあるいつものフロアへ出ていった。

そして2時間が経過した。

時計の短針があとほんのわずかで9のところへ差し掛かろうとしている。人妻たちは、もうウズウズしてスポーツどころの騒ぎではなかった。

「はやくうっ！！はやくっ！はやくっ！だいらんこおしたいいいいっ！！」

足をモジモジさせ、膝と太ももの内側を引っ付けておねだりポーズの熟女たち。

「ねえっ！もう時間らしいわよお！リーダーが行っていいって！！」

ついに時間がやって来たのだ。

熟女たちは4階へと向かう。

中へ入ると、そこはトレーニング器具もスポーツ用品も何も置いていないただっぴろい部屋。

そして、左右と奥が鏡張りであった。

本来、ここはエアロビクスなどダンスで使われているフロアだ。

そして、フローリングの床全体に薄いマットが敷き詰められ、そこにはすでに“準備万端の相手”がいた。

そこには・・・

全裸で、一人残らずペニスを勃起させている青年たちが待ち構えていた。

体験版はここまでです。

もし気に入っていただけましたら、

続きを製品版でお楽しみいただけると幸いです。